

第十五回定期大会の成功をかちとろう

ズシリ 2

八・八集会破産、危機にあえぐ松崎

東鉄労八・八集会は、鉄道労連内部の矛盾と不満の湧出による危機に加え、動労千葉・動労総連合のスト、国労四万、清算事業団五千の闘いにより破産し、「組織率七五％に」は瓦解した。

革マル・松崎は、いま「ただ単に組合員が増えればいいのではない。複数組合は今後も存在する。一企業一組合と言っても、現実にはそう簡単にはいかない」と、完全に消耗している。

JR経営危機と組織的危機にかられた革マル・鉄道労連の一企業一組合画策は、会社当局と一体となつて凶暴化することは明白だ。現に松崎は「今後組織強化・拡大に向け、一つひとつ手を打っていく」と豪語してはばからない。更には「一企業一組合というのは会社の経営問題だ。会社自身が会社の為にそうすべきだ。それは不当労働行為ではない」と、動労千葉、国労破壊攻撃に拍車をかけている。

戦争協力で危機打開ねらう

また、松崎は、こうも言っている。「一企業一組合の下で、会社と組合が二人三脚を組み『右』へ進んでもいいのだ。企業に貢献する労働組合になる必要がある。それが社員の利益を守ることだ。まさに、これを地でいったのが、青函トンネル軍事輸送である。JR当局の『戦車輸送も通常業務、サービスだ』と、松崎がかつて表明した『青函トンネル軍事利用賛成』とが二人三脚を組んでの強行だ。

企業に貢献し、企業と二人三脚を組み、右へ右へと突き進む労働組合の行き着く先はどこか。社員の利益を守るためだと、『小集団』『増収』活動に利用される鉄道労連傘下の組合員のたどる道は何か。まぎれもなくそれは、産業報国会であり、労働監獄である。戦争に協力し、労働者には資本への忠誠を誓わせる、これが鉄道労連の正体なのだ。

労働者犠牲に生き残り策す

会社の利益のために「意識を改革」すれば、差別されず有利になれる、とタダ働きを強制。だが、これは大ベテンだ。生き残るために相手の労働者を蹴落していくたびに、労働条件は悪化し、やがて強制労働に死に行き着く。現に、労連内部でもそれは問題化している。これに対し松崎は「当局が経営協議に応じたくない。当局が（労連を）対等に扱ってくれない」と泣きごとを並べ、悪るいは当局だと開き直っている。

労働者に犠牲を強いる、これが鉄道労連だ。

自民党の手先になり首切り要請

分割・民営化の渦中、雇用問題で取り引きし、十万人の首を売り、資本の手先となった革マル・鉄道労連の犯罪的行為はまだまだある。分割・民営化に異議をとない、いまなお不屈に闘い続ける労働者の首切りを会社に要請。「大東亜共栄圏」を叫ぶ右翼ファシスト・松崎は、鉄道労連大会にかいて自民党支持を決定、その運動を推進するためにJR党なるものを旗上げ、戦費調達のための大型消費税導入、赤字必至の整備新幹線に賛成。

更には、九〇年株式市場に向けてと称して、東日本二万人の首切りを叫ぶに至っている。

鉄道労連を完全解体しよう！

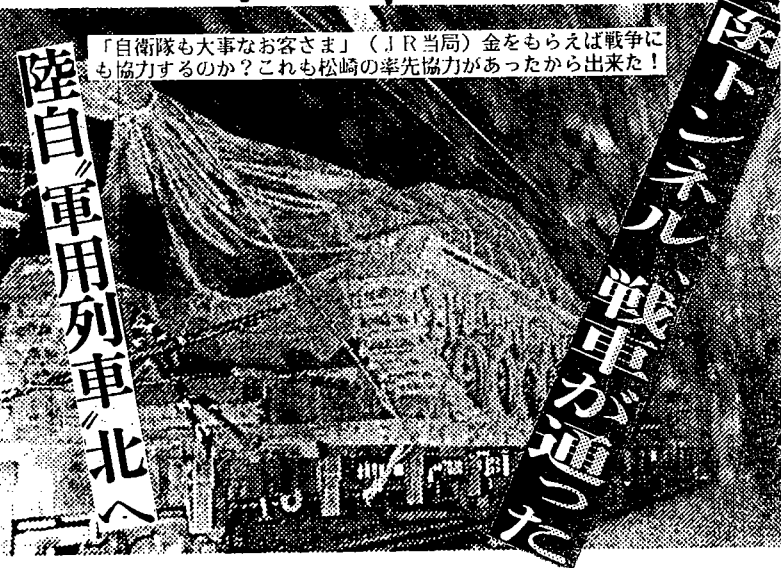
労働者を戦争にかりたてる自民党の手先になるような革マル・松崎とその郎党は、労働者のことなど考えてはいない。目先の利益、一時の楽しさなどにごまかされてはならない。闘う国鉄労働者の反撃は、鉄道労連を重大な危機に叩き込んでいる。今大会を新たな契機に更なる闘いを構築し、鉄道労連を解体していこう。

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

労働者の敵＝鉄道労連解体

要求 首切り要
自民党支持
戦争協力

「自衛隊も大事なお客さま」（JR当局）金をもらえば戦争にも協力するのか？これも松崎の率先協力があって出来た！



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！